



中1ギャップ

- ◇ 「中1ギャップ」という言葉が世に出回るようになってかなりの月日が経ちます。中1ギャップとは小学生が新中1生となったときに、学校生活や授業のやり方が今までとまったく違うため、新しい環境（学習・生活・人間関係）になじめないことから不登校となったり、いじめが急増したりするなどいろいろな問題が出てくる現象のことです。これは、「小一プロブレム」といっしょに接続の問題だと言われています。しかし、この言葉はあまり一般的ではないらしいのです。Benesseの調査によると、中1ギャップという言葉中学生の保護者の過半数が「聞いたことがない」と回答しているというのです。さらに、「中1ギャップ」という言葉の意味について「知っている」と答えた人は全体の7%だったということです。
- ◇ しかし、「中1ギャップ」という現象は少なからずあるものです。そこには、小学校と中学校の文化の違いだけでなく、子どもたちの成長にかかわることも関係してきます。この現象の原因をある程度明らかにすることで、その対策が考えられるのではないかと思います。そこで、Benesseが保護者に中1ギャップの意味を説明して、その原因を予想してもらった結果がありますので、そこから考えてみようと思います。

《中学生の保護者が考える「中1ギャップ」の原因（予想）》

- 教科担任制になるから
- 英語科の学習が始まるなど、内容が難しくなるから
- 急に授業の進度が速くなり、教師側も中学生になったのだから、と自立して自主的な学習を求めるから
- 小学校では友達との学力差などが見えないし、感じられなかったが、突然デジタル化され、順位などが出て自分の実力を知り驚いてしまうから
- 子どもたちの学習の様子を家庭がきちんと把握していないから
- きちんとした校則があり、急に「自立」を求められるから
- 部活動では厳しい練習が始まり、怖い先輩もいるから
- 成長期で、ホルモンバランスの乱れがある時期にも関わらず、塾通いやクラブ活動で忙しくなるから
- 携帯電話（スマホ）を持つ子が増え、情報が伝わる範囲が広く、そのトラブルに巻き込まれるから

いずれも、あり得そうな理由ばかりです。小学校と中学校の文化が違うのだから仕方ない面も多いと思われれます。教科担任制では、教科ごとに先生が異なるため、授業の進め方やノートのとり方もそれぞれ違いますから、それらに慣れることも必要になってきます。定期テストの在り方や授業のスピードについても、中学校の場合、高校入試という明確な目標がありますので、仕方ないことかも知れません。自立が求められることについても、「自分でなんとかする」場面が増える中学校

ですから、校則が増え、先輩との上下関係で守るべきルールなども増えます。小学校までの自由さがなくなり「え、こんなことまで細かく決めるの?」と感じる子もいるでしょう。今までなかった緊張のなか、自分で考えて行動する場面が増えて「どうしたらいいのかがわからない」ことがストレスになるということでしょう。

そのような成長過程にあるからということでしょうから、小学校との違いにストレスを感じるというのは仕方のないことかも知れません。

◇ でも、できるならば中学校に入った子どもたちには、楽しい中学校生活を送って欲しいものです。そのために、小学校では何をやればいいのかを考えてみました。

*** 小学校での学習をきちんと身に付けさせる。**

やっぱり勉強が分からないということが、一番のストレスではないかと思います。特に基礎基本については責任を持って指導しておきたいものです。

*** 我が子の学習の状態を親にきちんと把握してもらう。**

小学校から中学校へ変わる時期は小学校段階の総仕上げとも言える時期ですので、苦手が残っていないか、得意なことは何か、学習習慣はどの程度身につけているのかというポイントが具体的にわからないと、中学校で困ったことがあっても子どもの相談にも乗れないということを親に伝えておくことが大切です。

*** 自ら問う習慣をつけさせる。**

中学校に入ると、授業では小学校ほどはあれやこれやと説明することが少なくなるので、急に授業の進度が速くなるように感じます。中学校では基本的に自主的に勉強する姿勢を求めようになりますので、具体的には「わかるかな?」と先生が声をかけてくれるのを待つのではなく、自分から「先生、ここがわかりません」と質問に行けるようにしておきたいものです。

*** 小中の学習の進め方をそろえておく。**

学習のスタイルが変わることもストレスの原因です。授業の始めにめあてを書く、授業の終わりにまとめとふりかえりをする、などの基本的なスタイルだけはそろえておきたいものです。

*** 自分で考えて行動する習慣（自学の習慣）を身に付けさせる。**

中学校では、基本的に自立が求められます。小学校時代に先生から言われたことしかできないようだと、それは間違いなくストレスにつながります。そこで、6年生くらいには自分で考えて行動できるよう習慣づけを行います。宿題も同じで、与えられたものだけをこなす力では到底中学校ではついていけなくなります。自分で考えて学習を進める「自学の習慣」をつけさせたいものです。

*** 人間関係づくりを学ばせる。**

部活動が始まって大幅に環境が変わるので、特に人間関係を上手くやれない、コミュニケーション力が不足している子は、まいてしまうのではないのでしょうか。先輩とのタテ関係は、小学校までは「優しくしてくれる上級生」という関係しかなかったのが、「尊重すべき・自分を指導してくれる存在」に変化します。そこでの差に戸惑うというのは容易に想像が付きまします。そこで、人とかかわることの楽しさや大切さを学級活動を通して学ばせておくことが大切です。

◇ いずれにしても、この問題は学校だけで解決できることではありません。6年生では、学級懇談会などの時間を使って、「中一ギャップ」について話をし、家庭の協力が得られるようにしていくことが大切なのかもしれません。